

# 寺尾第二地区民生委員児童委員協議会 令和7年1月～3月までの取り組み

## 地域の相談役として・・・

障がいの理解のための講座

認知症サポーター養成講座

その他 研修・講座の運営、参加

地域には、様々な方がお住まいです。寺尾第二地区では民生委員児童委員会が企画運営にかかわって、障がい理解講座や認知症サポーター養成講座を年間 各2回、施設の視察研修を実施しています。障がいや病気などについて正しく理解することが「誰もが安心して暮らせる地域づくり」の第一歩と考えているからです。今年度の取り組みをお伝えします。

これまで基礎講座を複数回受講したかたが、スキルアップのために受ける講座です

## 認知症サポーター養成講座 ～ステップアップ編～



お話を  
松尾ゆかり先生

講師に松尾ゆかり先生を迎えて認知症ステップアップ研修を開催しました。認知症とはどういう症状か学んだあと、支える上で大切なことを教えていただきました。さらに事例別に「私たちにできること」をグループごとに話し合い、発表して、それぞれの場面での対応を再認識できました。

### 認知症の方と向き合う大切なポイントは・・・

- ① 「認知症だから」ときめつけるのは偏見！
- ② その人の、環境、職歴、家族状況、性格、好みなどの「ものがたり」を考えてみる
- ③ できること、できないことを共有することで、その人ができることをたくさんみつけられる
- ④ 困った言動を目の当たりにしたときその背景を想像してみる
- ⑤ 楽しい！やりたい！ということを増やしていく。笑って「楽しい」と感じるのが一番！

\*早期発見、早期治療が大切：認知症であったとしても、早期治療によって進行を遅らせることができる。受け入れていく時間が作れる

\*認知症になっても安心して暮らせるまちへ。居場所が地域にあることは大事：ご本人、ご家族が居場所をみつけてホッとできる

高齢者の方とお話しする時やご家族のご相談を受ける際も、とても参考になるお話しでした。



## 障がい理解のための講座

「学齢児の発達障がい理解とかかわり方」と題して横浜市東部地域療育センターソーシャルワーカーの柳田めぐみさんのお話をお聞きしました。

\*発達障がいのお子さんへの対応：目でみてわかるように、分かりやすく伝える  
否定的な言葉を使わず、より具体的に、肯定的な言葉で伝える  
ほめる、認める、笑顔を返すことを心がける

\*初めに理解してほしいこと：わがままやしつけ不足ではありません。

\*日常生活に困難が生じていることが障がい：適切に関わり育てていくことで、困難が気にならなくなるくらい発達します。

### \*参加された方の感想

- ・具体的に多くの例をあげて、とてもよく理解できました。
- ・否定ではなく肯定、ダメではなく、してほしいことを具体的に伝えるなど、障がいがある子どもたちへの対応のヒントをたくさん得られました。 ・もっと多くの子育て中の方に聞いて頂きたかったと思います。
- ・「困難さ」に気づき対策を共有することが大切だと思いました。



# 鶴見・あいねっと第4期 寺尾第二地区の取り組み

～第4期にできたことを振り返り第5期へに繋ぐ～



声掛け応援隊  
ふれあい  
支えあい  
寺尾第二地区社協



この地域の大きな課題の1つでもある山坂・階段の多さが、高齢者の行動の妨げになっていることを受け、“移動支援”にも取り組んでいます。



声掛け応援隊のデザインを統一し、普及を目指しています。



第2回地域と何かできる会では、民生委員児童委員がファシリテーターを務め、子どもたちが意見を出しやすい環境づくりをしました。短時間ではありますが、とても充実した会になりました。

## 世代を超えて未来に つなごう 地域の輪



「認知症サポーター養成講座」の回数を増やし、地域カフェ向け講座をはじめ小・中・高校でも実施することができました。



障がい理解の講座も年に複数回行っています

地域の将来を担う子どもたちの意見を取り入れるために「地域と何かできる会」を実施し、昨年度の振り返りをしました。昨年度できたこととできなかったことを確認し、今年度取り組むテーマと実施に必要なことを話し合っています。

多世代交流の居場所「はな♡そうカフェ」に多くの方が参加してくださいました。絆を深めるために“挨拶をする”という目標は、カフェに来た時は「こんにちは」食器の返却口では「ごちそうさま」「ありがとう」を声に出すなどを子どもたちが決め、それを実行できています。また、念願だった“遊水地の開放”もカフェと同じ日に実施することができ、参加者も増えました。遊水地利用上の約束も子どもたち自身が決めて、それを守っています。



第2回「地域と何かできる会」の決定を受けて、上の宮中学校の福祉委員会が地域清掃に取り組むことになりました。名称は、「LCT!」(Let's Clean Tsurumi!)としました。この活動が寺尾第二地区だけでなく、鶴見区全体に広がって欲しいという中学生の思いがこもっています。

中学生のアイディアで、スタンプラリーをしながらの清掃活動をしました。チームは地域の多世代で構成されました。司会・進行もすべて中学生が担当しました。

